

IV-24

地域連携軸を活かした港湾の利活用について

秋田大学 学生員 ○ 大粒来茂樹
 秋田大学 正 員 木村 一裕
 秋田大学 正 員 清水浩志郎

1. はじめに

地域の活性化は、一つの地域が孤立的に活力を持続することは困難であって、さまざまな地域との連携と交流が不可欠となっている。この交流と連携を促進させる方法としての交通施設整備においては、道路や鉄道など陸上交通だけでなく、空港や港湾と道路、鉄道とを連携すること(マルチモーダル)によって、多様で、より広い地域との交流が可能となると思われる。さらに、地域連携軸の実現のためには、連携軸上の地域の双方にとってメリットがあることが重要な要件になると思われる。

東北地方北部では秋田県と岩手県の間いくつかの連携軸が想定されていることから、本研究では地域連携軸を活かした港湾利用について、広域的な可能性を探るとともに、その条件整備について考察することを目的としている。

2. 調査概要

調査地域は岩手県、秋田県の沿岸・内陸地域、横断道地域、高速道路地域で、港湾の利活用については、今回はおもに秋田港の利活用について質問を行った。調

表-1 アンケート回収状況 査項目は①地域連

	岩手県		秋田県	
	回収数	配布数	回収数	配布数
市町村長	31	41	31	36
商工組合頭 商工会長	30	42	29	36
全 体	61	83	60	72

7. 1. コンテナの就航に対する考え方等について質問した。

3. 地域連携を活かした港湾利用で有効な分野

(1) 全体的傾向

図-1は地域連携軸を考慮した有効な各分野について全体的な期待を表している。秋田県の港湾との距離抵抗が大きいため、岩手県側の割合が若干低くなっている。最も期待が大きいのは両県とも物流の増加となっており、流通が港湾利用の最も有効かつ重要な分野であるとの認識を示している。最も期待が低いのは両県ともベンチャービジネスとなってい

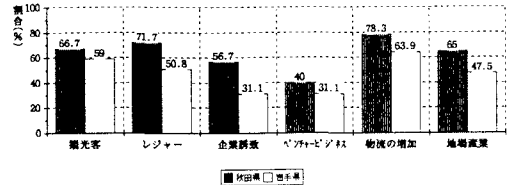


図-1 期待できるとした分野

る。この分野は、発想や高い専門知識、技術力など、交通等の社会基盤以外の要因の影響力が高い分野ではあるが、この分野における港湾利用のさまざまな可能性について、探求することが求められよう。

(2) 沿岸、内陸別分析

表-2は岩手・秋田双方の期待できると回答した割合を沿岸、内陸別に表したものであり、左から秋田県の港湾までの距離順となっている。

表-2 期待できるとした分野【単位: %】

	秋田県		岩手県	
	沿岸	内陸	内陸	沿岸
観光客の増加	80.0	60.0	52.5	71.4
レジャー・レクリエーション	90.0	62.5	50.0	52.4
企業誘致	70.0	50.0	27.5	38.1
ベンチャービジネス	55.0	32.5	30.0	33.3
物流の増加	80.0	77.5	57.5	76.2
地場産業	70.0	62.5	40.0	61.9

全体的な特徴としてレジャー・レクリエーション、観光客、物流の増加といった分野、つまり観光や流通的に対して高い期待を示している。しかし岩手県内陸部での期待は全体的に他の地域に比べて低くなっている。その理由としては、この地域が国土の軸である東北縦貫道への関心が高いことと、産業関連のポテンシャルの高いことがあげられよう。したがって、地域連携のイメージがある程度明らかになった時点では、様々な可能性が期待される地域であると思われる。

(3) 横断道地域別の分析

表-3は岩手、秋田双方の期待できると回答した割合を横断軸上、軸周辺別に割合を示したものである。

表-3 期待できるとした分野【単位: %】

	秋田県		岩手県	
	軸上	軸周辺	軸上	軸周辺
観光客の増加	47.8	78.4	69.0	50.0
レジャー・レクリエーション	47.8	86.5	58.6	43.8
企業誘致	52.2	59.5	37.9	25.0
ベンチャービジネス	26.1	48.6	37.9	25.0
物流の増加	82.6	75.7	82.8	46.9
地場産業	60.9	67.6	55.2	40.6

両県の横断軸上の地域では流通・産業関連に対して高い期待を示していることが分かり、軸周辺地域では横断軸に連携した観光関連に対して高い期待を示している。また岩手県の非軸上地域の期待度が全体的に低く、このことがネックとなる可能性があり、これを改善するための支援策として、地域連携軸の整備にあわせて、これにアクセスする交通路の整備が必要と思われる。

4. 地域連携により期待される分野

図-2、3は岩手、秋田それぞれの分野の連携先への期待を示したものであり、グラフ中の数値は各分野でどれだけの人が各連携先に期待しているかという割合(%)を示している。

観光関連で秋田は関西、北海道方面、岩手では北陸、東北(日本海側)方面への関心が高い。産業関連で秋田では関東方面、岩手では関西方面に対して、流通関連では両県とも関西への関心が高く、加えて岩手では海外方面に対して高い期待を示している。ベンチャービジネスでは岩手の海外への関心の高さを除けば両県とも関西、関東、東北(日本海側)への関心は一致している。岩手県は関西との交流が薄く、モーダルシフトによって、これが実現すれば新たな展開と発展が期待できる。

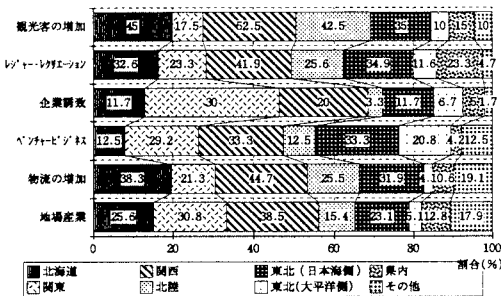


図-2 秋田県の各方面への期待意識

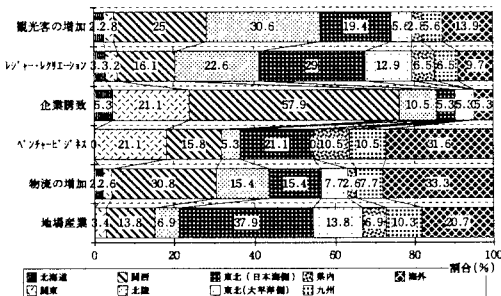


図-3 岩手県の各方面への期待意識

5. フェリー・コンテナに対する関心度

現在、秋田港では釜山、香港までのコンテナ航路を開設しており、これに対する調査も行った。図-4はフェリー・コンテナに対する横断軸上地域の期待度の割合を両県で比較したものである。

全体的に見てフェリー・コンテナを利用した各分野に対する意識の特徴は、これまでの分析と同じような傾向である。沿岸内陸別、横断道別の分析結果も同様で、観光面、流通面に対して関心が高い。ただし、その期待割合は前章までの分析に比べて約10%程度低く、また秋田港との距離に比例してもその関心は低くなる。レジャー・レクリエーションにおいては秋田沿岸と岩手沿岸との間に約40%の開きが見られた。横断軸上の地域で見ると両県の間に顕著な差異はなく、むしろ岩手県側の期待は全ての項目において高い。したがって連携する上での障害は少なく、早期の連携が望まれる。連携を通じての各方面への特徴も殆ど同じで両県とも関西、北陸方面に対しての関心が高いが、北海道方面への関心が高い秋田県に対し岩手県での関心は殆ど見られず海外への関心が高かった。

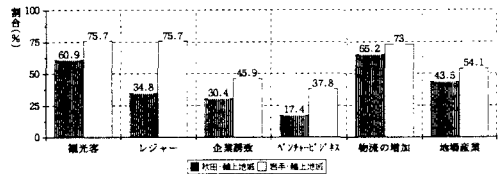


図-4 フェリー・コンテナにおける期待(横断軸上の地域)

6. まとめ

期待意識や関心に影響する要因として次のことがあげられる。A)距離的なもの、B)分野の活発・不活発によるもの、C)地域のポテンシャルによるもの、D)陸軸の充実によるもの、E)近くの大規模な港湾や都市群の存在によるもの、F)連携の効果に確信を持っていないことによるもの、などである。以上の6要素は単独ではなく、同時に複数の要素が重なり合って影響していると考えられる。これらを支援するための課題としては、①高規格道路による横断軸の強化、②横断道までのアクセス強化、③自治体レベルでの産業支援、④双方向の連携意識、⑤潤いのある魅力的な港湾整備などであり、今後の研究の課題としては岩手県の港湾利用に対する調査を実施することがあげられる。

なお調査の実施にあたっては、岩手県、秋田県の市町村長、商工会議所会頭、商工会長、運輸省秋田港工事事務所の方々に、ご協力ならびに貴重なご意見をいただいた。ここに記して深く感謝の意を表します。